



TrustWrite

ユーザーマニュアル

v1.6.0 対応

初めての方でも、上から順に進めれば「記事作成 → レビュー → 事実確認 → 修正」まで完了できる
操作ガイド

このマニュアルのゴール

TrustWriteを初めて使う方が、迷わずAI接続・記事作成・文章レビュー・事実確認・WordPress保存まで進められることを目的としています。

「どこに何を書けばよいか」「どのボタンを押せばよいか」「どの選択肢を選ぶか迷う場面」を重点的に解説します。

目次

1. TrustWriteでできること
2. 最初の準備
3. 3分でわかる最短操作フロー
4. 「新しく記事を作る」完全ガイド
5. 比較記事を書くときの設定
6. 「今ある文章を見直す」完全ガイド
7. 事実確認とWeb確認の使い方
8. AIモデル例の使い方
9. API料金メーターの見方
10. WordPress下書き保存
11. 公開前チェック
12. よくある迷い・トラブル対処
13. よくある質問 (FAQ)
14. サイト管理者向け設置手順

1. TrustWriteでできること

TrustWriteは、AIに本人の経験や意見を勝手に作らせず、安全な記事下書きの作成と、完成済み・公開済み文章のレビューを行うWordPressプラグインです。

画面上部には「新しく記事を作る」と「今ある文章を見直す」の2つのタブがあります。目的に合わせて使い分けます。

手順	操作	完了の目安
A	新しく記事を作る：テーマ・読者・本人材料を入力し、構成案と安全な下書きを生成します。	記事のたたき台をゼロから作りたい
B	今ある文章を見直す：すでにした文章を貼り付け、事実・一般化・本人らしさ・押し付け表現などを確認します。	既存記事を安全に改善したい

TrustWriteの基本思想

AIが書いてよいもの：一般的な説明、文章整理、安全な言い換え、明示されたモデル例。

AIが勝手に作ってはいけないもの：本人の経験、本人の感情、本人の実績、本人の意見、未確認の数字や料金・仕様。

2. 最初の準備

2-1. TrustWriteを開く

サイト管理者が作成したTrustWriteページを開きます。通常は本文に [trustwrite] が設置された固定ページです。

画面上部に「新しく記事を作る」「今ある文章を見直す」の2つのタブが表示されれば準備完了です。

2-2. AIサービスとAPIキーを準備する

TrustWriteはOpenAI、Google Gemini、Anthropic Claudeに対応しています。利用者自身のAPIキーを入力して使います。

重要：APIキーについて

TrustWriteはAPIキーをDB・Cookie・localStorageに保存しません。ページを再読み込みすると再入力が必要になる場合があります。

APIキーは各AI会社のAPI契約用キーです。ChatGPT、Gemini、Claudeの月額Webサービス契約だけではAPI利用枠が自動的に付くとは限りません。

1. 「AIサービス」で使いたいサービスを選びます。
2. 「モデル」で利用モデルを選びます。迷う場合は画面で推奨表示されているモデルを選びます。
3. 「あなたのAPIキー」にAPIキーを貼り付けます。
4. 「接続テスト」を押します。
5. 画面に接続成功が表示されたら次へ進みます。

ここで止まりやすい：接続テストが失敗した場合

- 1) APIキーの先頭・末尾に空白が入っていないか確認します。
- 2) 選んだAIサービスとAPIキーの発行元が一致しているか確認します。
- 3) API側の残高・利用上限・請求設定を確認します。
- 4) カスタムモデルIDを使っている場合は、利用権限があるモデル名か確認します。
- 5) それでも失敗する場合は別モデルで接続テストを試します。

3.3分でわかる最短操作フロー

手順	操作	完了の目安
1	AIを選択 → APIキー入力 → 接続テスト	接続済みになる
2	「新しく記事を作る」または「今ある文章を見直す」を選ぶ	目的の画面を開く
3	必要な入力欄を埋める	AIに渡す材料が揃う
4	生成またはレビューを実行	本文・指摘が表示される
5	本人確認が必要な箇所を補う／事実確認を実行	未解決事項を減らす
6	修正案を採用し、必要なら再レビュー	公開できる状態に近づく
7	ログイン中ならWordPress下書き保存、または本文をコピー	作業完了

迷ったらこの順番

「AIが直せるところ」→「事実確認」→「本人しか答えられないところ」の順に処理すると、負担が少なく進められます。

4. 「新しく記事を作る」完全ガイド

STEP1：使うAIを選ぶ

前章の手順でAIサービス、モデル、APIキーを設定し、接続テストを済ませます。下書き作成側のAPI料金メーターには「構成案生成の概算」「下書き生成＋監査の概算」が表示されます。

STEP 2：記事設計を入力する

入力欄	書き方の目安
記事テーマ	何について書く記事か。例：「Microsoft 365とGoogle Workspaceの比較」
想定読者	誰に読んでほしいか。例：「Google Workspaceを使っていてMicrosoft 365も検討中の個人事業主」
読者の悩み	読者が今困っていること。できるだけ1つの中心課題に絞ります。
この記事の結論	記事で一番伝えたい判断。断定しすぎず「私の場合は～」でも構いません。
読後にしてほしいこと	読み終えた後にしてほしい行動。例：「無料トライアルで操作感を確認する」

ここで止まりやすい：「結論が決まっていない」

仮の結論で構いません。「Aが最適」と決められない場合は「AとBは用途で使い分ける」「自分の環境ではAが合っている」程度でも十分です。構成案を見てから書き直せます。

STEP 3：本人材料を入力する

本人材料は「経験」「意見」「具体例」を分けて入力します。ここがTrustWriteで最も重要な部分です。

手順	操作	完了の目安
経験	実際にしたこと・起きたことだけ。 例：「3年間Google Workspaceを使っている」	事実として本人が言える
意見	本人の判断・好み・考え。例：「ブラウザ中心の作業が自分には合う」	本人自身の評価
具体例	本人が提示できる具体的な場面。実体験でなくても本人が「この例を使う」と決めたもの	本文を具体化できる

入力してはいけない例

「たぶんこうだった」「AIが想像した経験」「他人の体験を自分の体験として書く」は入れないでください。わからない場合は空欄で構いません。TrustWriteが不足箇所を残します。

「不足している本人材料を質問してもらう」の使い方

何を書けばよいかわからない場合は、このボタンを使います。AIは回答を創作せず、足りない材料だけを質問します。

1. 「不足している本人材料を質問してもらう」を押します。
2. 表示された質問に、自分が本当に言える範囲だけで回答します。
3. 経験・意見・具体例のどれとして使うかを確認します。
4. 不要な質問は無理に答えず、そのままにして構いません。

迷ったときの判断

質問に答えられない＝記事が書けない、ではありません。空欄なら本文に「[ここに本人の経験を追加]」等を残せます。後から追記の方が安全です。

AIモデル例を許可するか

「本人の具体例がない箇所では、AIによるモデル例の提案を許可する」をオンにすると、本人経験ではなく説明用の架空例を使えます。

モデル例は「モデルケース」「例題」「架空の会話例」「Before/After例」などとして明示されます。本人の実体験のように扱いません。

5. 比較記事を書くときの設定

比較記事では「比較対象ごとの利用経験」を必ず設定することをおすすめします。未使用サービスについてAIが使用感を創作するのを防げます。

手順	操作	完了の目安
両方使用経験あり	AとBの両方について、入力した本人経験を使えます。	両方を実際に使った

Aのみ使用経験あり	Aだけ本人経験可。Bは公式情報・確認済み事実・明示されたモデルケースのみ。	Aは使った、Bは未使用
Bのみ使用経験あり	Bだけ本人経験可。Aは公式情報中心。	Bは使った、Aは未使用
どちらも未使用	両方とも本人経験は禁止。公式情報・比較表・モデルケース中心。	調査記事として書く

例：Google Workspaceは使っているがMicrosoft 365は未使用

比較対象A：Google Workspace

比較対象B：Microsoft 365

利用経験：Aのみ使用経験あり

この場合、Microsoft 365について「使いにくかった」「快適だった」などの使用感を本人経験としてAIは書きません。

結論の書き方

片側未使用の場合は「自分にはAが合う」までは書けますが、「Aの方がBより優れている」と一般化しないのが基本です。機能・料金・対応OSなどはWeb事実確認で裏付けます。

STEP 4：構成を作る

構成タイプを選び、「AIに構成案を作ってもらう」を押します。

手順	操作	完了の目安
悩み解決型	読者の困りごと→原因→解決策→行動という流れに向く	検索ニーズ・比較・問題解決
体験談型	出来事→気づき→変化→結論という流れに向く	本人経験が中心の記事
ノウハウ型	手順や方法を順番に説明する記事に向く	操作方法・使い方・業務手順

生成された「完成した構成」は必ず目視で確認し、不要な見出し・自分が言えない内容・比較対象の偏りがあれば直接編集します。

構成案は確定ではありません

AI案をそのまま使う必要はありません。「本人が本当に書けるか」「読者の悩みから話が広がりすぎていないか」を基準に削る方が良い記事になります。

STEP 5：本文下書きを作る

1. 「安全な下書きを生成」を押します。
2. 生成された本文と「安全性監査」の結果を確認します。
3. 「ここに本人の経験を追加」「ここに本人の意見を追加」「事実確認が必要」などが残っていても正常です。
4. 必要なら本人材料を追記して「安全性を再監査」を押します。
5. 本文が整ったら「この本文を文章レビューへ送る」を押します。

ここで止まりやすい：「[事実確認が必要]が残っている」

エラーではありません。TrustWriteが「AIの知識だけで断定しない方がよい」と判断した箇所です。文章レビュー側へ送り、Web確認を実行してください。

6. 「今ある文章を見直す」完全ガイド

すでに書いた記事、公開済み記事、他のAIで作った文章もレビューできます。下書き作成側から「この本文を文章レビューへ送る」を押した場合は本文と比較設定が引き継がれます。

STEP 1：AIを接続する

下書き側と同様にAIサービス・モデル・APIキーを設定し、接続テストを行います。

STEP 2：本人材料とチェック項目を確認する

「本人材料を登録する」は任意ですが、入力すると「本人らしさ」「経験の捏造」「一般化」の監査精度が上がります。

初めて使う場合はチェック項目を基本的にすべてオンのままにすることをおすすめします。

- 事実確認
- 変動情報（料金・容量・無料期間・プラン条件）
- 価格文脈（税込/税別・契約形態・本人実支払額）
- 一般論・深み
- 押し付け・上から目線
- 強すぎる断定
- 本人らしさ・意見
- 冗長・AI的な反復
- 誇張・広告調
- AIモデル例の比率
- 比較記事の公平性

迷ったらチェックを外さない

チェック項目を減らすとレビュー対象が減ります。料金節約のために外すより、まず一度全体レビューして、不要な指摘を無視する方が安全です。

STEP3：本文を貼り付けてレビューする

1. 「本文を確認・修正」に文章を貼り付けます。
2. 「文章を検証・評価する」を押します。
3. 右側の「修正・確認事項」に指摘カードが表示されます。
4. 指摘カードをクリックすると該当箇所へ移動します。

指摘カードの読み方

手順	操作	完了の目安
AIだけで安全に修正可	語調、冗長、押し付け、強い断定など。修正案を確認して採用できます。	AI修正を使いやすい
本人確認が必要	本人経験・本人意見・判断が足りない箇所。	AIに作らせず自分が答える
事実確認が必要	料金・仕様・制度・数値・外部サービス機能など。	Web確認へ進む

7. 事実確認とWeb確認の使い方

料金、価格、容量、無料期間、プラン名称、提供条件、利用上限、商用利用、著作権、プライバシーなどは、AIの一般知識だけではなく最新Web情報で確認します。

個別に確認する

対象カードの「最新情報を確認」または同等の確認ボタンを押します。TrustWriteは公式・公的・一次情報を優先して確認します。

まとめて確認する

1. 「事実確認候補をまとめて確認」を押します。
2. 各主張は内部で個別に確認されます。
3. 確認後「確認結果を本文へ一括反映」を押します。
4. 適用前の差分を確認します。

5. 問題なければ「この確認結果を本文へ反映」を押します。

確認結果の意味

verified：確認済み表現を使えます。

partially_verified：一部だけ確認できたため、安全側の表現を優先します。

conflicting：公式情報などが食い違っています。断定せず安全側の表現を使います。

not_found：十分な確認ができません。AIが推測で埋めず、安全側の表現を提案します。

価格情報で特に注意

「本人が実際に払っている金額」と「公式サイト標準価格」は同じとは限りません。税込/税別、年契約/月契約、旧契約、地域、キャンペーン等を区別します。本人の実支払額を事実として書く場合は「私が現在支払っている金額」と文脈を明確にしてください。

一括反映されないことがある理由

同じ原文が本文中に複数ある場合や、レビュー後に本文を書き換えて元の文章が見つからない場合は、誤置換防止のため自動反映されません。その項目だけ個別に確認してください。

8. AIモデル例の使い方

本人の経験や具体例がないからといって、AIが本人経験を捏造する必要はありません。「AIモデル例を提案」を使うと、説明用の例を別枠で作れます。

1. 具体例が必要と指摘されたカードで「AIモデル例を提案」を押します。
2. AIがモデルケース・例題・架空会話・Before/Afterから適した形式を選びます。
3. 複数案から内容を確認します。
4. 本人経験に見えないかの監査を通過した案だけ採用します。

未使用サービスの比較記事でも使えます

Microsoft 365を使ったことがない場合でも「Microsoft 365を使ってみたら～」とは書かず、「【モデルケース】WordやExcelを日常業務で多用する企業を想定すると～」のように第三者・仮想例として説明できます。

9. API料金メーターの見方

TrustWriteの利用料は、入力したAPIキーの契約先に発生します。料金メーターは「実行前の概算」と「実行後の使用量」を確認するための目安です。

手順	操作	完了の目安
概算	次のレビュー、構成案生成、下書き生成＋監査のおおよその料金	ボタンを押す前の判断用
今回の実績	直前のAPI処理で使ったトークン等から計算	操作単位の目安
累計	現在の作業セッションでの合計	記事1本のコスト感
累計使用量	入力token・出力token・Web検索回数	料金増加の原因確認

「参考為替」は日本円換算用です。実際の請求額はAI提供会社の請求画面を最終確認してください。

10. WordPress下書き保存

「WordPressの下書きとして保存」は、投稿権限のあるユーザーでWordPressにログインしている場合だけ表示されます。

1. 本文生成後、「WordPress下書きのタイトル」を入力します。
2. 「WordPressの下書きとして保存」を押します。
3. 保存完了後のリンクからWordPress編集画面を開きます。
4. 確認マークや本人追加箇所を確認し、必要な追記を行います。

保存ボタンが表示されない

ログアウトしているか、現在のWordPressアカウントに投稿作成権限がありません。管理者・編集者・投稿者など、投稿権限のあるアカウントでログインしてください。

11. 公開前チェック

TrustWriteで「問題なし」と出ても、公開責任は最終的に執筆者にあります。次を確認してから公開してください。

- [ここに本人の経験を追加] などのプレースホルダーが残っていない
- [事実確認が必要] の項目を確認した、または安全側表現へ置換した
- 料金・容量・無料期間・プラン条件に確認日や条件が必要なら追記した
- 比較記事で未使用側の使用感を本人経験のように書いていない
- モデルケース・例題が本人経験と誤認されないラベルになっている
- 「絶対」「最適」「安全」「商用利用可能」など強い断定に根拠がある
- タイトルと本文の結論が一致している
- WordPressのプレビューで見出し・箇条書き・リンクを確認した

12. よくある迷い・トラブル対処

API接続テストが失敗する

サービスとキーの発行元、API残高、キーの空白、モデル権限を確認。別モデルでも試します。

AIのレビュー結果をJSONとして解析できない

TrustWriteはJSON抽出・修復・再試行を行います。再実行しても続く場合は、別モデルを試すか原稿を少し短くして再レビューします。

「本人の経験を追加」が多く残る

正常です。本人材料が不足しています。質問機能を使うか、書けない箇所はモデル例にするか、見出しごと削除します。

事実確認で情報が競合する

無理に1つを正解にせず、安全側表現を採用します。価格なら税込/税別・契約期間・地域・本人実支払額の違いを確認します。

一括修正で一部が直らない

本人確認・事実確認が必要な箇所は一括AI修正対象外です。また同じ文が複数ある場合は誤置換防止でスキップされます。

レビューへ送った後に本文を直した

本文を直接編集して問題ありません。大きく変更したら「文章を検証・評価する」をもう一度実行してください。

料金が高く見える

長文を何度も全文レビューすると入力tokenが増えます。最初に一括レビュー→必要箇所だけ個別修正→最後に再レビューの順が効率的です。

ページ上部に旧タイトルが出る

固定ページ自体のタイトルをTrustWriteに変更するのが最も確実です。プラグイン側にも旧タイトル非表示処理がありますが、テーマによってはページタイトル設定を確認してください。

13. よくある質問（FAQ）

Q. ChatGPT Plusなどの月額契約だけで使えますか？

A. TrustWriteはAPIキーを使います。Web版AIサービスの月額契約とAPI課金は別の場合があります。各提供会社のAPI設定を確認してください。

Q. APIキーは保存されますか？

A. 保存しません。DB、Cookie、localStorageには保存せず、リクエスト時だけWordPressサーバーを経由します。

Q. 公開済みの記事もレビューできますか？

A. はい。本文を「今ある文章を見直す」に貼り付けてレビューできます。

Q. 本人経験がまったくなくても記事を書けますか？

A. 一般説明や公式情報、明示したモデルケースを使う記事は作れます。ただし本人経験がない部分を本人の体験談として書くことはできません。

Q. 比較対象を使ったことがありません。比較記事は書けますか？

A. はい。「どちらも未使用」または片側のみ使用経験を設定し、未使用側を公式情報中心に扱います。

Q. Web確認できなかった場合はどうなりますか？

A. 確認できない事実をAIが推測で確定せず、断定を避ける安全側の言い換えを提案します。

Q. AIの修正を全部自動で適用しても大丈夫ですか？

A. 一括修正はAIだけで安全に直せると判定された箇所に限定されます。それでも適用前の差分を必ず確認してください。

14. サイト管理者向け設置手順

1. WordPress管理画面で「プラグイン > 新規追加 > プラグインのアップロード」を開きます。
2. TrustWriteのZIPファイルをアップロードし、有効化します。
3. 固定ページを新規作成します。
4. 本文に [trustwrite] を1行だけ配置します。
5. 固定ページを公開します。
6. 公開ページを開き、TrustWriteの2つのタブが表示されることを確認します。

推奨ショートコード

新規設置は [trustwrite] を使用してください。レビュー専用ページが必要な場合は [trustwrite_review] も利用できます。

セキュリティ上の注意

利用者がAPIキーを入力するため、HTTPSで運用してください。不特定多数に公開する場合は、サイト自体の信頼性・WordPressの更新・プラグイン更新・アクセス制御も確認してください。

最終クイックチェック

手順	操作	完了の目安
☐	AI接続テストに成功した	
☐	本人経験・意見をAIに作らせていない	
☐	比較記事なら利用経験を設定した	
☐	構成案を本人が確認した	
☐	事実確認対象をWeb確認した	
☐	確認できない項目は安全側表現にした	
☐	修正差分を確認して採用した	
☐	公開前プレースホルダーを確認した	
☐	WordPressプレビューで最終確認した	

TrustWrite — AIと一緒に、本人らしさと事実を守りながら文章を整える